

平成23・24年度 熊本県教育委員会指定

「生きる力」を育む研究指定校
心の教育研究推進校

研究紀要

【研究主題】

**自分、仲間、ふるさとを愛す、
豊かな心を身に付けた生徒の育成**
～教育活動全体で取り組む道徳教育『一中プラン』の実践を通して～



平成24年11月9日(金)
阿蘇市立一の宮中学校

目次

はじめに

I 研究の概要

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	目指す生徒像および道徳教育における重点内容項目	2
4	主題のとらえ方	3
5	研究仮説と研究内容	4
6	研究組織	4
7	研究の経過	5
8	研究構想	5

II 研究の実際

研究内容① 生き方について語り合う道徳の時間の充実

1	内容項目の重点化と年間指導計画の作成	6
2	生き方について語り合う「道徳の時間」の充実	6
	(1) 生き方について語り合う道徳の授業デザイン	6
	(2) 生き方について語り合う道徳の授業づくりの視点	7
	(3) 道徳の時間の実践	8
	【第3学年 4-(2) 公德心、社会連帯の自覚「缶コーヒー」(「明日をひらく」東京書籍)】	
	(4) 『熊本の心』を活用した実践	9

研究内容② 望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実

1	望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実	10
2	望ましい人間関係を形成する学級活動の充実	10
	(1) 学級活動年間指導計画の作成	10
	(2) 望ましい集団活動へと向かう話し合い活動(『YOU I トーク』)の視点	11
	(3) 話し合い活動の流れ	12
	(4) 話し合い活動の実践【第3学年 学級活動3-(イ) 「クラスの学習ルールを作ろう」】	12
	(5) 係活動の充実	13
3	生徒会活動『あそはなうたプロジェクト』の取組	13

研究内容③ 支持的風土で学び合う各教科の授業づくり

1	道徳教育全体計画別葉の作成	14
2	支持的風土で学び合う各教科の授業づくり	14
	(1) 各教科における小集団での学び合い『YOU I トーク』について	14
	(2) 「自然発生グループ」での『YOU I トーク』について	15
	(3) 国語科での実践【第2学年 題材名「明日」(光村図書)】	15
	(4) 理科での実践【第1学年 単元名「植物の世界(第3章植物の種類)」(東京書籍)】	17

研究内容④ 日常的に道徳的価値に触れる校内環境づくり

1	「自己実現を楽しむ心」の育成のために	18
2	「自他を大切にできる心」の育成のために	18
3	「ふるさとを愛する心」の育成のために	18

III 研究のまとめ ~仮説の検証(研究の成果○)と課題(●)、今後の展望(☆)~

	全体仮説について	19
1	仮説①について 研究内容①	20
2	仮説②について 研究内容②	20
3	仮説③について 研究内容③	20
4	仮説④について 研究内容④	20

おわりに
参考文献・研究同人

はじめに

教育の不易と流行、特に不易の部分、「発表の仕方」「聞き方」、「板書」「発問」を大切に、実践を積み重ねてまいりました。そのような実践を続ける中で、一つの疑問にぶつかりました。生徒たちは、相手のことを考えた発表や聞き方ができているのか、私たちの立場から言えば、相手を見つめる『心』を育ててきたのか、という疑問です。

そのように感じているときに、本研究指定のお話をいただきました。生徒たちの「心を育てる」という点に重点を置いた研究が進められると考えました。具体的に言えば、「道徳の時間を要とし、教育活動全体で取り組む道徳教育の構築」です。

中学校では、道徳の時間が軽視される傾向が見られます。そこを打ち破り、「自分のことが大好き」「仲間が大好き」「阿蘇が大好き」と言える素直な心を持った生徒たちを育てていきたい。そんな思いから、道徳を中心に据えながら、特別活動や各教科に共通する実践事項を設定し研究を進めていくことにしました。

このような基本的な考えのもと、理論研究と授業実践を数多く行いました。授業研究会には外部講師をお招きし、様々な助言をいただきました。

私たちは、部会のテーマに沿って、様々な角度から意見を出し合うワークショップ形式での授業研究会を続けて参りました。

私たちは、多くの理論や実践を積み重ねることで、道徳教育の奥深さを感じ、さらに高みを目指して、研修していこうとする姿勢を持つことができました。

生徒たちは、相手を思いやる「温かい心」を自覚し始めています。私たちも、生徒たちも行動することで、相手に思いが伝わるという人としての大切な部分を日々学び続けています。

今後さらに成長していくためにも、本日の研究発表会で忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。

平成24年11月9日

阿蘇市立一の宮中学校

校長 家入 春三

I 研究の概要

1 研究主題

自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成 ～ 教育活動全体で取り組む道徳教育『一中プラン』の実践を通して ～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

学習指導要領では「21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる『知識基盤社会』の時代」と示されている。このような状況の中で確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要視されている。さらには、平成24年度から中学校において全面実施となった新学習指導要領において、教育活動全体を通して行う道徳教育の重要性がさらに強調されている。

現代の社会は、科学技術の進歩・発展が人間の生活に多大な恩恵をもたらしている一方で、それを活用する人間の心にさまざまな影響が出てきていることも少なくない。道徳性の発達が、社会の影響を大きく受けることから、変動の激しい社会において、学校教育全体を通して行う道徳教育を充実させ、生徒一人一人の豊かな心を育成していくことは、我が国における喫緊の課題として看過できないものとなっている。

(2) 本校の教育目標から

本校では、「人間尊重の精神を基底におき、豊かな心と確かな学力を身につけ、故郷を愛する自主的精神に充ちた逞しい一宮中学校生徒を育成する」の教育目標のもと、「生徒あつての教職員」「地域あつての学校」「授業で勝負」「子どもの姿で勝負」等を合言葉に職員一丸となって生徒一人一人に「生きる力」を育む教育を追求している。特に「豊かな心」の育成に関しては、「相手の思いや考えをきちんと聞き、それを踏まえて自分の思いや考えを相手にきちんと正しく伝えられる生徒の育成」「夢がもてる生徒の育成」「地域のよさやすばらしさを知り、愛する生徒の育成」を目指し、教育活動全体の場で道徳教育を中心とした心の教育を充実させていくことで、「豊かな心」を基盤とした「生きる力」を育んでいきたいと考えている。

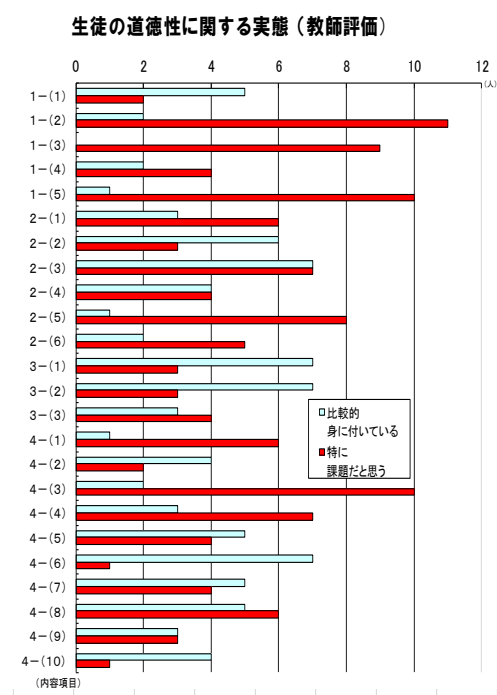
(3) 本校生徒の実態等から

本校は、阿蘇カルデラ内に位置し、歴史的にも重要な遺産である阿蘇神社が隣接している等、豊かな自然環境や文化的遺産に恵まれている。また、保護者も含め、地域住民は人情味にあふれ、そのような中で生徒たちも純粋で素直に育っている。

研究を進めるにあたり、平成23年5月に実施した本校生徒の実態に関する本校職員及び保護者へのアンケート調査の結果から以下のような課題や願いがあることがわかった。

○ 生徒の道徳性に関する職員へのアンケート調査の結果から

内容項目ごとに「比較的身に付いている」「特に課題だと思う」という視点から、生徒の道徳性の実態をとらえた教師の印象評価の結果が右グラフである。



この結果から、右の6つの内容項目に関して、特に課題があることがわかった。

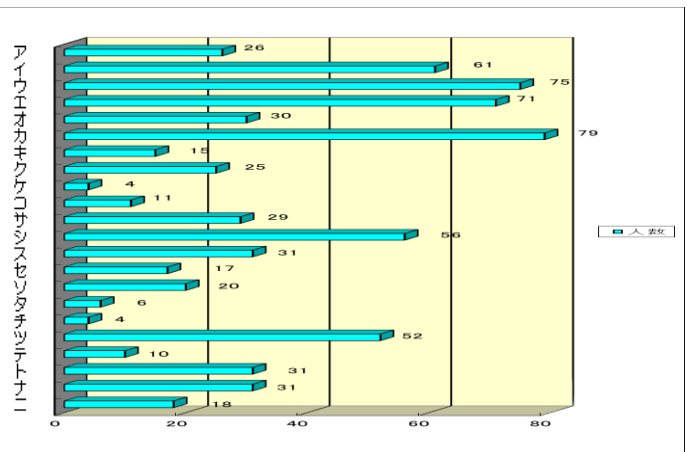
○ 豊かな心の育成に関する保護者アンケートの結果から

保護者が願う子どもたちの姿に関して、下のグラフからもわかるように、多くの保護者が学力面のみならず、それ以上に豊かな心（高い道徳性）を身に付けて欲しいという願いを強くもっていることがわかった。特に、下の表に示した内容に関する願いが強い。それに対して、自然や郷土に対する愛情面での数値（※ 郷土を愛する子ども【4-（8）】）が低い。このことは、世界的にも評価されている阿蘇の自然や文化が、地域の人々にとっては特別なものではなく、当たり前前の日常の風景として認識されているからだと考えることができ、これは生徒の普段の様子からもうかがえる。地域や保護者との連携をさらに深めながら、地域の担い手としてふるさとよさを知り、誇れるような取組を進めていく必要があることがわかった。

1-（2）	高い目標・希望と勇気・やりぬく強い意志
1-（3）	自律の精神・自主的に考える・誠実に実行し結果に責任
1-（5）	自己を見つめ向上を図る・個性を伸ばして生き方追求
2-（5）	個性や立場の尊重・いろいろなもの見方理解・他に学ぶ
4-（3）	正義を重んじる・公正公平・差別や偏見のない社会実現
4-（4）	集団の意義を理解・役割と責任の自覚・集団生活の向上

ウ 思いやりのある子ども	2-（2）・4-（3）
エ 善悪の判断ができる子ども	4-（3）
カ 命を大切にできる子ども	3-（1）
シ 粘り強く、忍耐力のある子ども	1-（2）
ツ 友達を大切にできる子ども	2-（3）・4-（3）

ア 勉強ができる子ども
イ 礼儀正しい子ども
ウ 思いやりのある子ども
エ 善悪の判断ができる子ども
オ 健康で体力がある子ども
カ 命を大切にできる子ども
キ すすんで仕事をする子ども
ク 自己主張のできる子ども
ケ 読書好きな子ども
コ 表現力が豊かな子ども
サ 素直な子ども
シ 粘り強く、忍耐力のある子ども
ス 親や家族を大切にできる子ども
セ 明るい子ども
ソ 正直な子ども
タ 自然を愛する子ども
チ 郷土を愛する子ども
ツ 友達を大切にできる子ども
テ 正義感の強い子ども
ト 責任感の強い子ども
ナ ルールや決まりを守る子ども
ニ 正しい言葉遣いのできる子ども



これらの結果から、本校生徒の道徳性に関する実態を以下の3点にまとめた。

- 将来に夢と希望をもち、その実現に向けて日々努力を積み重ねている生徒が少ない。目標達成や自己実現に伴う満足感、充実感を味わった経験が少ないことが原因であると考えられる。
- 多様な価値観や考え方を受け入れられずに、周囲の生徒と友人関係を構築することが苦手であったり、自分の気持ちを率直に表現することができなかつたりする等、生徒間の人間関係におけるコミュニケーション能力に課題がある。自他の良さに気付く力に課題があるといえる。
- 世界的評価も高い自然・文化環境で生まれ育っているにもかかわらず、生徒にとってそれは当たり前であり特別なものではない。そのため、地域の素晴らしさに目を向け、特別な愛情と誇りをもって生活をしているような生徒は多くない。地域の人と関わったり、地域について学んだりする機会も少ない。

以上、今日的課題、本校の教育目標、生徒の実態及び保護者の願いを鑑み、本研究主題を設定した。

3 目指す生徒像及び道徳教育における重点内容項目

上記の主題設定理由を踏まえ、目指す生徒像及び育てたい心、さらには道徳教育推進における重点内容項目を下表のように設定し、研究を進めることにした。

目指す生徒像	夢や希望をもち、主体的に実現していく生徒	自分の思いや考えをきちんと伝える生徒 相手の思いや考えをきちんと聞く生徒	地域のよさやすばらしさを知り、誇れる生徒 家族の大切さを実感し、感謝する生徒
育てたい心	自己実現を楽しむ心	自他を大切にできる心	ふるさとを愛する心
重点内容項目	1-（2）目標の実現 1-（5）個性の伸長	2-（5）個性の尊重 3-（1）生命の尊重 4-（3）公正公平 4-（4）役割と責任	2-（6）感謝 4-（8）郷土愛・家族愛

4 主題のとらえ方

(1) 自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心とは

「自分を愛す豊かな心」とは

『自己実現を楽しむ心』ととらえる。日常生活の中で自らを振り返り、自らの生きる意味や自己の存在価値を問い、これからの自分に夢や希望をもって人間としてよりよい生き方を主体的に模索し、実現していくことを楽しむ心を育てていく。

「仲間を愛す豊かな心」とは

『自他を大切にできる心』ととらえる。人は、他者とのかかわり合いによって心が安定したり、精神的な成長を遂げたり、人間としての生き方を自覚したりする。そこで、生徒が、人間的な触れ合いや相互の協力、励まし合いなどによって互いに信頼と敬愛による人間関係を築き上げることを大切にできる心を育てていく。

「ふるさとを愛す豊かな心」とは

『ふるさとを愛する心』ととらえる。中学生の時期は、自我の確立を強く意識するあまり、自分だけで存在していると考えがちである。このような時期に、生まれ育った家族や地域社会、郷土に目を向け、その環境や人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。自分たちが生活している郷土をつくり上げてきた伝統と文化、先人の努力に思いを寄せ、感謝の心を持ち、それを発展させて後世に引き継いでいこうとする心を育てていく。

以上のことから、育てたい心を、「自己実現を楽しむ心」「自他を大切にできる心」「ふるさとを愛する心」の3つの心に重点化し、自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒を育成する。

(2) 教育活動全体で取り組む道徳教育『一中プラン』とは

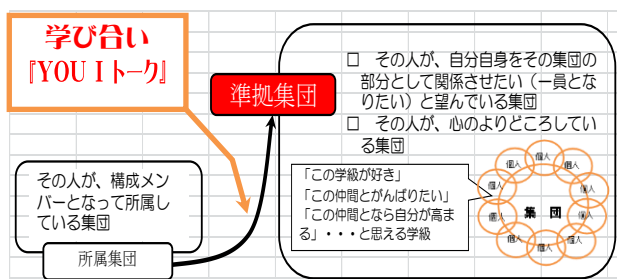
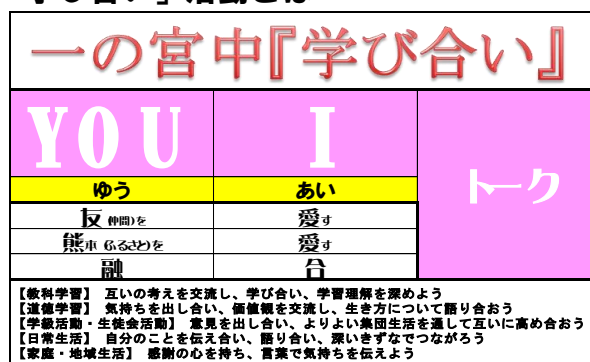
全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として、生徒一人一人が自分の思いや考えを言葉で語り、共有して高め合う「学び合い」を位置付ける。特に、道徳の時間、特別活動、各教科の授業における「学び合い」を充実させ、学習目標の達成と同時に生徒一人一人に豊かな心を育てていきたいと考える。これらの教育指導計画を総称して『一中プラン』とする。キーワード化することで、共通理解、共通実践を促進する。

(3) 全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動「学び合い」活動とは

生徒一人一人が自分の思いや考えを言葉で語り、共有して高め合う「学び合い」を、全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として位置付け、『YOU I トーク』というオリジナルの活動名を付けて、キーワード化して生徒とも共有した実践を重ねていく。(以後、「学び合い」を『YOU I トーク』と表記する)

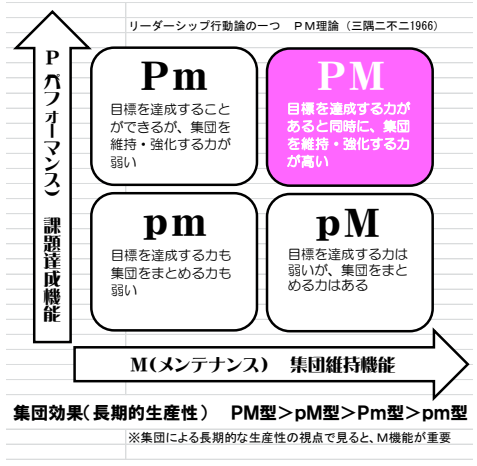
本研究で取り組んでいく『YOU I トーク』は、単なる所属集団の中で個々に学ぶ授業ではなく、意図的な『YOU I トーク』によって、学び合う準拠集団（環境）をつくり上げる授業スタイルへと変化させることをねらっている。本校で考える準拠集団とは、右図のように構成員である生徒一人一人が、自身を集団の一部として関係させたいと望んでいる集団、心のよりどころとしている集団である。

また、『YOU I トーク』を意図的、計画的に取り入れ、全ての教育活動において準拠集団化の視点を明確にするために、リーダーシップ行動論の一つである『PM理論』（三隅 1966）を参考に、教育活動を「学習目標達成の視点【課題達成機能（P）】と「支持的風土形成の視点【集団維持機能（M）】」の2つの視点でとらえることにした。



さらには、指導案作成においても、実態分析、指導観、本時の目標、展開に関してこの2つの視点を明確に記すこととした。

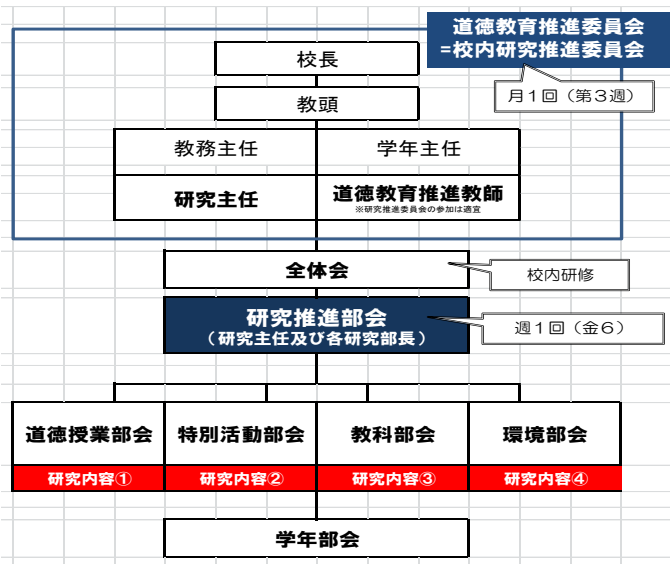
道徳的実践力（心）を道徳的実践（行動）へとつなげるためには、その行動はよいことだ、すべきことだ、必要だ、という価値を学ぶだけでは不十分である。重要なことは、「みんながやっている」「みんなでするとよくわかる」「みんなですると楽しい」「みんなですると自分も伸びる」「自分がやればみんなのためになる」ということを学ぶことではなからうか。学習目標を達成するためには、望ましい人間関係の基盤となる支持的風土の形成が不可欠であると考え。これらのことから、『YOU I トーク』の実践を重ねることは、生徒同士が学び合う環境をつくり「確かな学力」と「豊かな人間性」を同時に育むことにつながると考える。



5 研究仮説と研究内容

全体仮説			
全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として『YOU I トーク』を位置付け、『一中プラン』に基づいた実践を重ねれば、支持的風土の中で必然的に生徒同士が学び合う集団となり、豊かな心を育むことができるであろう。			
仮説①	仮説②	仮説③	仮説④
生き方について語り合い、多様な価値観に出会うことで自我を見つめることのできる道徳の時間を充実させれば、自己やふるさとへの理解が深まり、生徒に豊かな心を育むことができるであろう。	道徳的実践の場として、意図的・計画的な特別活動を充実させれば、望ましい人間関係や一人一人のコミュニケーション能力を高めることができ、生徒に自主的・実践的な態度や豊かな心を育むことができるであろう。	各教科での学習の中で、効果的な『学び合い』の場を設定し、実践を重ねれば、学習目標の達成と同時に支持的風土が形成され、生徒に確かな学力と豊かな心を育むことができるであろう。	生徒の生活の基盤である校内の環境を道徳的観点から整えれば、日常的に道徳的価値に触れることができ、生徒に豊かな心を育むことができるであろう。
研究内容①	研究内容②	研究内容③	研究内容④
「人間としての生き方」について、自分の生き方と他者の生き方とのつながりの中で学び合う道徳の授業	よりよい生活や人間関係を築くための学び合い（話し合い活動）によって運営される特別活動	効果的な学び合いによって、学習目標が達成されると同時に、支持的風土が育まれる各教科の授業	意図的・計画的な環境設定等によって日常的に道徳的価値に触れることのできる環境づくり
生き方について語り合う「道徳の時間」の充実 ○重点的指導の明確化 ○年間指導計画の再構成 ○授業づくりの工夫 生き方について語り合う授業づくり ○『熊本の心』の活用 ○『心のノート』の活用	望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実 ○学級活動年間指導計画の作成 ○意図的・計画的な学級活動における「話し合い活動」の充実 ○『あそはなうたプロジェクト』の実施 自主的・実践的な態度を育成する生徒会活動や学校行事の充実	支持的風土で学び合う各教科の授業づくり ○道徳教育全体計画別業の作成 ○学びの態度の育成 ○効果的な学び合いの場（『YOU I トーク』の場）の設定と内容、方法の工夫	日常的に道徳的価値に触れる環境づくり ○道徳的観点からの教室掲示の工夫 ○道徳的観点からの校内環境整備
道徳教育における評価とその分析			

6 研究組織

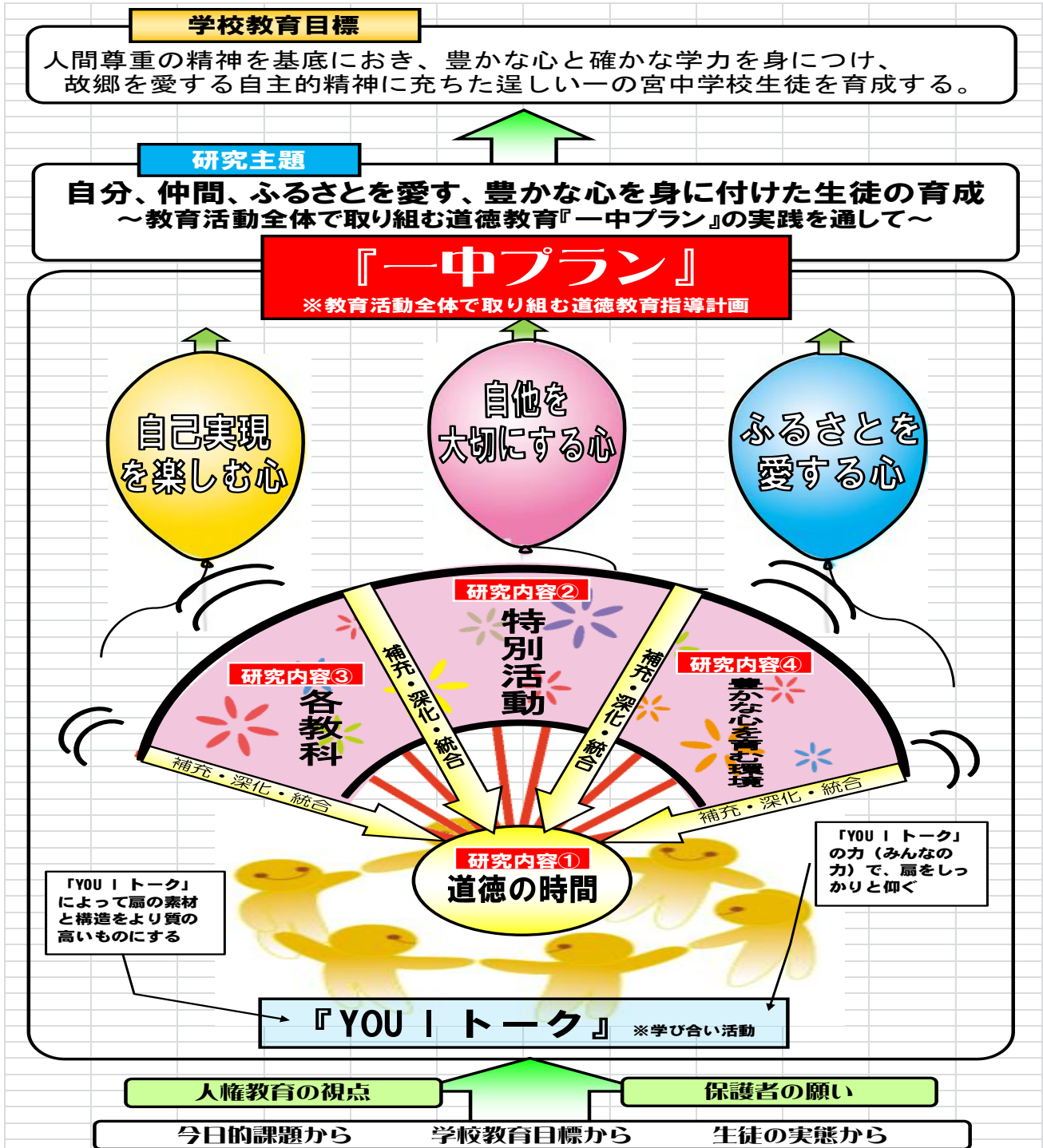


研究の推進体制をより機能的にし、強化するために、研究主任及び各研究部長（道徳教育推進教師含む）で構成する研究推進部会を設ける。週1回の研究推進部会で随時研究の推進状況を確認し、各部会、学年部会に下ろしていくことで、限られた時間の中での共通理解、共通実践を可能にする。全ての教育活動で道徳教育を推進するために、道徳の時間、特別活動、各教科での取組を研究する3部会に加え、豊かな心を育む道徳的環境づくりを担う環境部会を設置し、研究実践を行う。

7 研究の経過

	平成23年度		平成24年度
研究主題	自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成		
サブテーマ	「道德の時間」を要とし、教育活動全体で取り組む道德教育の構築		教育活動全体で取り組む道德教育『一中プラン』の実践を通して
主な研究内容	心をひきつけ、動かす「道德の時間」の充実	⇒ 共通理解から 共通実践へ 焦点化・重点化 キーワード化	生き方について語り合う「道德の時間」の充実
	道徳的実践の場としての特別活動の充実		望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実
	各教科における学び合いの態度の育成		支持的風土で学び合う各教科の授業づくり 日常的に道徳的価値に触れる環境づくり

8 研究構想



II 研究の実際

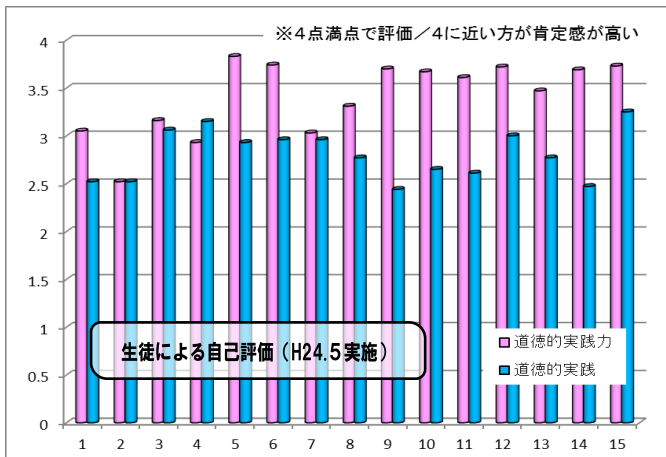
研究内容① 生き方について語り合う「道徳の時間」の充実

1 内容項目の重点化と年間指導計画の作成

計画的、発展的な指導によって、全ての教育活動における道徳の学習内容を補充、深化、統合するという「道徳の時間」の目的から鑑みて、重点内容項目に焦点化し、明確な意図をもった年間指導計画の作成が不可欠であると考え。このことから、生徒の実態や保護者の願いを踏まえ、右上に示した手順で年間指導計画を見直し、再構成を行った。

年間指導計画等の見直し手順	
①	重点内容項目の設定
②	指導内容の見直し 道徳の時間数・・・35時間 内容項目数・・・24時間 差引時間数・・・11時間 ⇒重点内容項目に充てる＝見直し
③	年間指導計画の作成 内容と時期から、配置を再検討
④	展開の概要の作成

2 生き方について語り合う「道徳の時間」の充実



左のグラフは、育てたい3つの心に関し、道徳的価値への思い（道徳的実践力）を問う設問と道徳的実践力に伴う行動（道徳的実践）を問う設問に分けて、生徒が自己評価した結果を表したものである。この調査から、以下の課題が浮き彫りとなった。

- 道徳的価値やその大切さは理解しているが、実際の行動（生き方）にはつなげられていない。
- 特に、設問9、10、11、14のような他者のかかわりに関係する項目において、道徳的実践力と道徳的実践の開きが大きい。
- 道徳の時間に関して、その必要性は感じているが、自身の生き方とのつながりを実感できていない生徒が多い。

このことを踏まえ、

生き方について語り合う「道徳の時間」

をキーワードに、生徒一人一人が、自他のこれまでの生き方について語り合う中で道徳的価値を自覚していく道徳の時間を充実させていきたいと考えている。

道徳の時間における『YOU I トーク』の場を、生き方について語り合う言語活動の場としてとらえ、実践を重ねていく。

(1) 生き方について語り合う道徳の授業デザイン

平成10年の中教審「心の教育」答申（以後、「心の教育審判」と表記）で、道徳教育の筆頭課題として

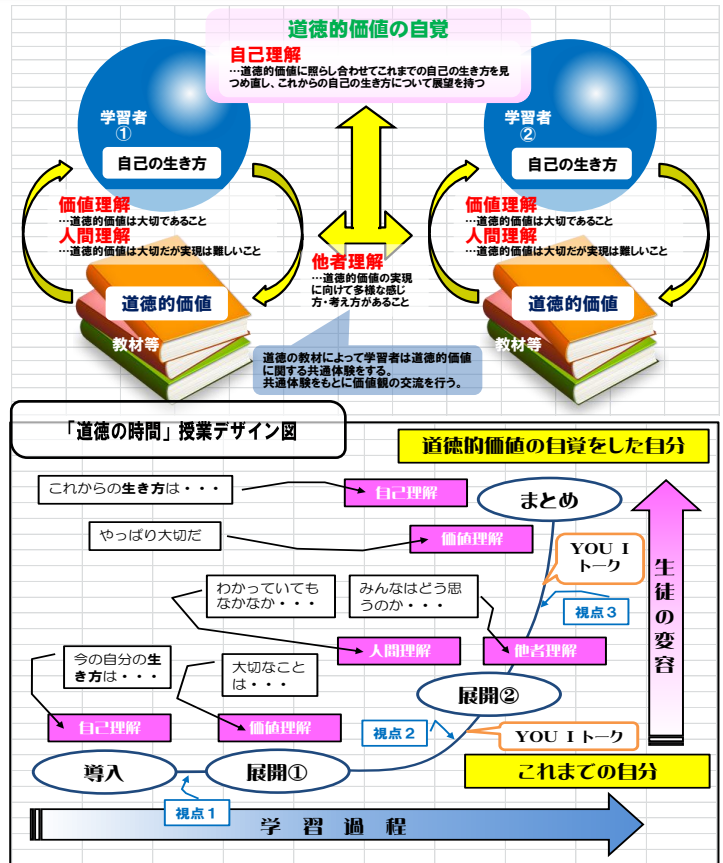
子どもに結論や答えを教えて「良い子」を作ろうとするのではなく、「子どもと共に考え、悩み、感動を共有していく」という考え方で授業を行うこと。特に中学校においては、子どもが自らの悩みや苦しみを主体的にとらえ、生きる希望や勇気が見出せるよう、とことん話し合いを深めるディスカッションによる授業や、豊かな体験活動と関連をもたせた授業、心に響く魅力的な生き方が描かれた資料を使った授業等を工夫すること。

が必要であると強調された。しかし、この答申から10年以上過ぎたにもかかわらず、現在の本校の道徳の授業に関していえば、その主旨を十分に理解した実践が行われているとはいえない状況があった。

道徳の時間は、「道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する」時間である。その際におさえておくべき事項として『中学校学習指導要領解説 道徳編』（以後『解説』と表記）31頁では、以下の3点が述べられている。

- 道徳的**価値**について理解する。 ※**人間理解**や**他者理解**も深める。
- 自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられる。 ※**自己理解**を深める。
- 道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培う。

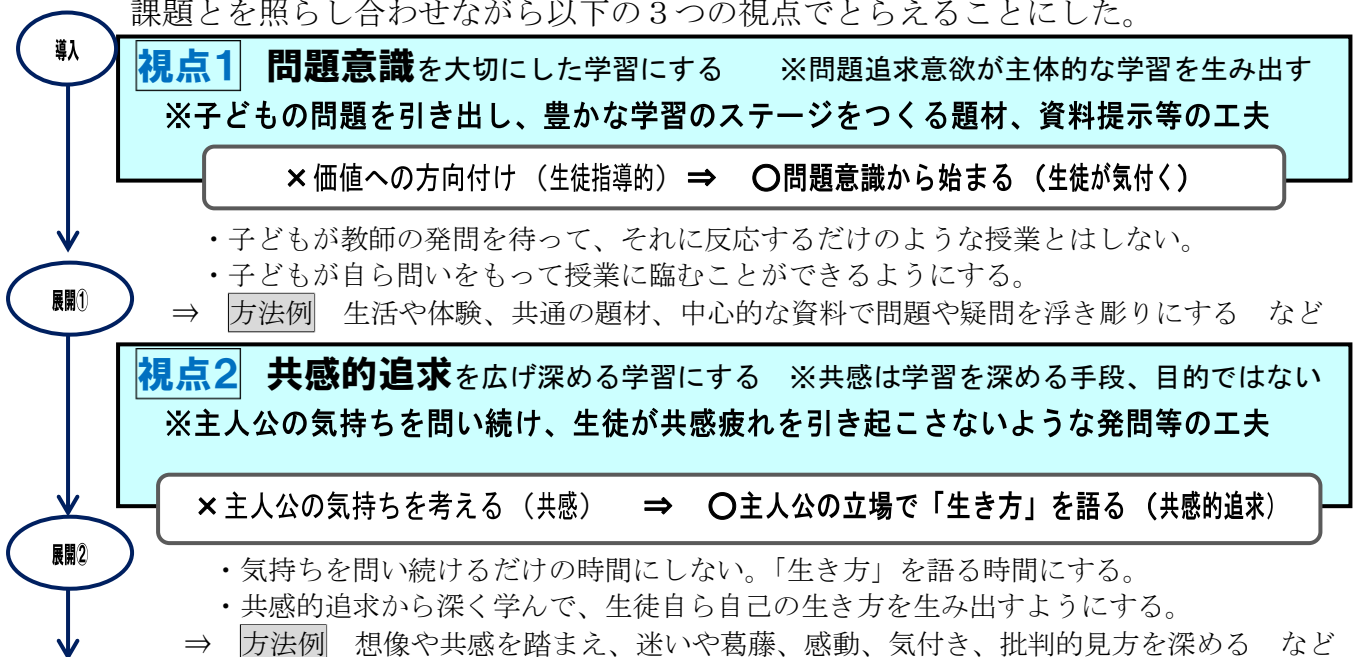
これを踏まえ、「道徳的価値についての理解」を右図のようにとらえ、「価値理解」のみにとどまる道徳の授業ではなく、議論などによって「他者理解」をしながら、「人間理解」をし、最終的には「自己理解」へとつなげることで、道徳的実践力を育んでいくことができると考えた。さらに、右下図のように、学習過程と生徒の変容を軸とした1単位時間の道徳の時間の授業デザイン図を作成した。「価値理解」「人間理解」「他者理解」「自己理解」の4つの理解場面を学習過程に位置付け、それぞれの場面での発問等を工夫し、『YOU I トーク』を介して生き方について語り合い、道徳的価値を自覚し、道徳的実践力を高められるような授業づくりを目指した。



(2) 生き方について語り合う

道徳の授業づくりの視点

本研究では、生き方について語り合う道徳の授業づくりを、東京学芸大学永田繁雄教授の考えを参考に、「心の教育答申」で指摘された課題と本校の道徳の授業の課題とを照らし合わせながら以下の3つの視点でとらえることにした。



視点3 多様な価値観を生かす学習にする ※自己の生き方を見つめ、広げ、深める
 ※一人一人の考えの違いを並べて終わらずに、その次を考える学習活動や学習展開等の工夫

×多様な考えを並べる（語る） ⇒ ○多様な考えで討論、議論する（語り合う）

まとめ

- ・考えの違いをそのまま発散させるだけの学習にしない。語り合う。
 - ・教師の考えや解釈に多様な考えを落とし込むような授業展開に陥らない。
- ⇒ **方法例** 出された多様な考えをもとに、比べ、話し合い、討論し、切磋琢磨する など

(3) 道徳の時間の実践

【第3学年 4-(2) 公德心、社会連帯の自覚「缶コーヒー」(出典:中学道徳「明日をひらく」東京書籍)】

本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
		「わたし」や「おばさん」の気持ちを考えながら「OLの女性」の行動をとらえ、社会生活における行動への関心や意欲、そして自覚をもつ。
	学習活動【学習形態】・主な発問等	生徒の反応等 3つの視点から
導入	1 資料の内容をつかむ。 ・範読を聞く。【一斉】 ・ペアで読む。【ペア】	ペア活動で互いに声を出し資料を読むことで、話し合い活動の雰囲気づくりとなった。
	自分が「わたし」の立場ならば、女性に何と声をかけるだろうか。	
展開①	2 個人で「わたし」を考える。【個別】 3 グループで意見を交換する。 【YOU I トーク(4人グループ)】 ○ 自分ならば、「何と云うか」「なぜそのように云うのか」意見を聞いてみましょう。	視点1 「『ああ…、大丈夫ですよ』。としか言えないだろうなあ」 「置き方は危ないし、電車のせいではないことを言わなくては。」 「言いたいけれど、言えないのではないかと」
	4 役割演技をする。 ・「わたし」「女性」に分かれ、それぞれ「わたし」の立場の言葉で役割演技をする。 【YOU I トーク(4人グループ)】 ○ 直接的に声をかけたり、かけなかったり、なぜそのような場面があるのだろうか。	視点2 「〇〇さんとだから言えるのかもかもしれないけれど、この女性を目の前にしたら、私は言わないと思う。」 「公共の場では、いろいろな人がいるし、周りの目もあるし、言いづらさがあると思う。」
展開②	5 「わたし」のような経験を振り返り、感想を発表する。 【YOU I トーク(4人グループ)】	視点3 ・一つの行動でも周りのいろいろな思いがあることを感じた。 ・みんなが気持ちよく過ごせるよう生活することが大事ではないか。


【生徒の変容○と今後の展望☆】

- 「わたし」と自分を重ねて考える場面で、心の中の言葉や率直な言葉での表現など、さまざまな意見や考えが出され、さまざまな視点からの交流ができた。 **視点1**
- 役割演技後、自分自身の普段の在り方を振り返りながら、言いたいことを伝える自分と思いと違う言動をとってしまう自分にジレンマを感じる様子が見られた。 **視点2**
- ☆ さまざまな意見や考えが引きだされ他者理解ができるよう、学級集団のよりよい人間関係を構築し、さらに You I トークを確立させることで、道徳の時間の充実を図る。その上で、人間理解、自己理解へとつながる授業展開の工夫をさらに行う。

(4) 『熊本の心』を活用した実践

新しく教材を追加し、改編された新たな道徳教育用郷土資料『熊本の心』が作成され、昨年度末、県内すべての学校に配付された。これには、阿蘇を題材とした資料も複数含まれており、本校では、「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を育む」有効な資料として、年間計画に位置付け、全学年で活用している。

【第3学年 4-(6) 家族愛(関連4-(8) 郷土愛)「草泊まり」(出典:『熊本の心』熊本県教育委員会)】

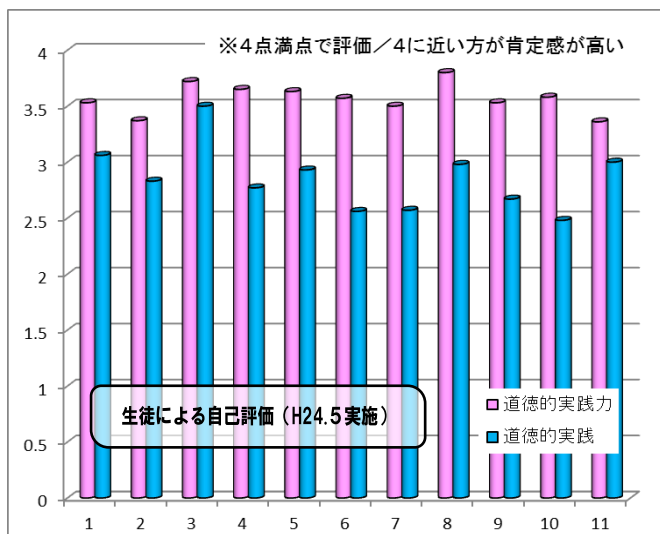
本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点			
	家族の一員としての自覚をもち、協力し合って、よりよい家族を築いていこうとする心情を育てる。	互いの考えを認め高め合う支持的な雰囲気の中で、一人一人が心地よく学び合うことができる。			
	学習活動【学習形態】・主な発問等	生徒の反応等 3つの視点から			
導入	1 アンケート結果をもとに、「草泊まり」についての理解度を確認する。【一斉】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>「草泊まり」について</td> </tr> <tr> <td>知っている：6人</td> </tr> <tr> <td>知らない：25人</td> </tr> </table>	「草泊まり」について	知っている：6人	知らない：25人	視点1 「聞いたことはあるけど、どんなものか詳しくは知らないなあ。」 「わらで作った家に泊まるって聞いたことがあるけど・・・」
	「草泊まり」について				
知っている：6人					
知らない：25人					
家族の一員としての自分の在り方を考えよう。					
展開①	2 資料「草泊まり」を読み、考える。【YOU!トーク(5人グループ)】 <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;"> <p>○ 「草泊まり」を通して子どもたちが得たことを考えてみましょう。</p> </div> <div style="flex: 1;">  </div> </div>	視点2 「仕事の大変さを学んだんじゃないかなあ。」 「自然の雄大さを感じたんじゃない?」 「家族で協力することの大切さを知ったと思うなあ。」 「学校が休みなんていいなあ・・・」			
	3 家族の一員としての自分のすがたを振り返り、これからの自分の在り方について考える。【YOU!トーク(5人グループ)】 <p>○ 家族の中で、自分に何ができるか考えてみましょう。</p>	視点3 「自分はあまり家のことを手伝ってないなあ」 「うちも、お父さん達は朝早くからいないよなあ。大変なんだなあ」 「○○くん、がんばってるんだなあ」			
まとめ	4 本時を振り返り、感想を書く。【個人】	視点3 今まで、あまり家族と話をしなかったけどこれからは家族と話して協力しながらがんばりたい。			

【生徒の変容○と今後の展望☆】

- 「草泊まり」の状況を想起する場面では、教師側からの助言をする前から自分自身の状況と重ね合わせながら考える生徒が多くみられた。 **視点2**
- 普段あまり話すことのない「家族」のことを友だちと話し合ったことで、家族について改めて見直すとともに、友だちを見直すことにもつながった。 **視点3**
- ☆ 「自分にできること=手伝い」で止まっている発言や記述が多く見られた。今後は学習形態の工夫をしながら価値そのものに迫ることができるような授業をつくっていく。

研究内容② 望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実

1 望ましい人間関係を形成する集団活動としての特別活動の充実



道徳的実践力	道徳的実践
みんなで話合って協力することは大切だと思う。(学校行事・学級活動など)	1 話合って決まったことを、協力してできている。(学校行事・学級活動など)
命を大切にしようと思っているクラスである。	2 命を大切にしようとしているクラスである。
共にながめられる仲間(友達)が必要だと思う。	3 共にながめられる仲間(友達)がいる。
友達のよいところを見習うことは大切だと思う。	4 友達のよいところを見習って自分を高めている。
学校や学級などにおいて、その一員としての役割や責任をしっかりと果たすことは大切だと思う。	5 学級や学校のための行動(係・委員会など)を積極的にしている。
学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしている仲間がいたら解決したい。	6 学級や身の回りで、悩みを抱えていたり、いやな思いをしている仲間がいたら、声をかけたり学級に呼びかけたりするなど、何か行動に移すことができている。
互いの意見や考えを出し合い、よりよい学級や学校を創り上げたいと思う。	7 自分の意見や考えを出し合って、よりよい学級や学校を創り上げることができている。
いじめや差別のない学級、学校にしたいと思う。	8 いじめや差別のない学級、学校にするために、その一員としての正しい行動をとっている。
生徒会活動や学校行事が盛り上がる、一の宮はもっとよい学校になると思う。	9 生徒会活動や学校行事等を盛り上げるために、自分ができることをしている。
阿蘇、一の宮のために、学校、学級のみならずできることをすることは大切だと思う。	10 阿蘇、一の宮のために、学校、学級のみならず一緒にできることをしている。
学校での出来事などについて、家族で会話することは大切だと思う。	11 学校での出来事などについて、家族で会話している。

左のグラフは、育てたい3つの心に関し、特別活動の視点から、道徳的価値への思い(道徳的実践力)を問う設問と道徳的実践力に伴う行動(道徳的実践)を問う設問に分けて、生徒が自己評価した結果を表したものである。この調査から、以下の課題が浮き彫りとなった。

- 特別活動の大切さは理解しているが、実際の行動(生き方)にはつなげられていない。
- 特に、設問6、7のように他者に自分の思いを伝えたり、他者や学級、学校のために行動したりすることに関する項目において、道徳的実践力と道徳的実践の開きが大きい。

このことを踏まえ、

望ましい人間関係を形成する集団活動

をキーワードに、特別活動を道徳的実践の場としてとらえ、生徒一人一人が、他者とのかかわりの中で充実感や所属感を味わい、望ましい人間関係を形成していく特別活動を充実させていきたいと考えた。

そのために、特別活動における話し合い活動の場を『YOU I トーク』の場としてとらえ、学級活動と生徒会活動を充実させることで、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を養い、望ましい人間関係を形成していきたいと考えた。

2 望ましい人間関係を形成する学級活動の充実

特別活動の中心にある学級活動で育てたい「望ましい人間関係」とは、

豊かで充実した学級生活づくりのために、**生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重しあうよさを認め、発揮し合える**ような開かれた人間関係(中学校学習指導要領解説 特別活動編 P25)

のことである。また、本研究でとらえる「望ましい集団活動」を、『解説』に記された内容を踏まえて「心の満足」を得られる**集団活動**ととらえる。「心の満足」にはさまざまな視点があるが、本校では、右のような感情をもつことを「心の満足」を得ることととらえている。

よくわかった(理解)
うまくできた(充実)
よくなった(向上)
楽しかった(高揚)
役に立った(有用)
認められた(所属)

このような望ましい人間関係を形成するために、望ましい集団活動へと向かう**話し合い活動**と学級における自治的な活動である**係活動**の充実を図ることとした。

(1) 学級活動年間指導計画の作成

特別活動の中心的な役割を果たす学級活動の在り方を見直すため、生徒の実態を踏まえ、道徳の時間との関連を図りながら年間指導計画の再構成を行った。「話し合い活

動」「道徳の内容項目との関連」を明確に位置付けることで、より道徳教育を意識した学級活動を展開することができる考えた。学級での話し合い活動や、係活動等が当たり前のように活発に行われるようになることが、学級生活の向上やよりよい人間関係の形成につながると考えている。

(2) 望ましい集団活動へと向かう話し合い活動(『YOU1 トーク』)の視点

望ましい集団活動へと向かう話し合い活動を充実させるための視点として、以下の3つの視点をもって授業づくりを行った。

<p>送徳の時間との関連</p> <p>○諸問題を思い出し、協力して解決していく自発的な活動を通じて、望ましい人間関係の形成やよりよい生活づくりに参加する意欲にかかわる連帯性を身に付けることができる。</p> <p>○人間としての生き方について幅広く探求し、心身の健康の保持増進に努め、豊かな人間性や個性の育成を図る。</p> <p>○現在及び将来の自己の在りかや生き方を見つめ、自己の目標を定めて努力していく。</p>											
<p>コミュニケーション育成の視点</p> <p>○意見を尊重しあひあふれあふから、積極的に自分の意見を押し通すことのできる力を育成する。</p> <p>○考えを尊重しあふれあふるようになり、学級の一人として集団全体の命を重んじてよりよい生活を送る力を育成する。</p> <p>○意見の異なる人と話し合いながら問題を解決する態度を育成したり、意見の対立が生じたとき、それを乗り越えて問題を解決する力を身に付けさせたりする。</p>											
<p>第1学年学級活動年間指導計画の一部</p>											
月	時数	題材	活動の内容	学級活動			目指す生徒の姿(まねも)			道徳内容項目との関連	生徒生活活動及び学校行事等との関連
				(1) 学級や学校の生活づくり	(2) 進級と成長及び健康安全	(3) 学業と通学	話し合い活動	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実動		
4月	1時	1年生の自分と2年生の自分。	2年生としてどう生活するべきかを考える。	○	イ	○	○	(1)	○	1-(2)	授業式、入学式、
	2時	みんなで伸びる学級をの。	学級目標を決める。	イ	○	○	○	(1)	○	1-(4)	校庭遠足、
	3時	みんなで伸びる学級をの。	学級の組織づくりをする。(学級の係・専門委員会)。	イ	○	○	○	(1)	○	4-(4)	欠席帳、休カリスト、
	4時	体育大会を成功させようの。	体育大会スローガン決める。	○	○	○	○	(1)	○	1-(3)	体育祭、

視点1 問題意識を大切に活動にする ※自主的・実践的な態度を生み出す活動
※生徒たちが問題提起をし、自分たちのために話合う

×生徒指導的視点(教師の視点)⇒ ○よりよい集団づくりの視点(生徒の視点)

- ・子どもが教師の提案を待って、それについて話合うだけの活動とはしない。
- ・子どもが自ら問いをもち、目的を理解して臨むことができるようにする

⇒ **方法例** 学級の実態を材料にする話し合い 生徒からの問題提起を生かした話し合い など

視点2 多様な考えを出し合い、その上で**合意形成(集団決定)**を行う活動にする
 …… ※集団での意思決定の重みを理解し、主体的にかかわる活動 (折り合う)
※話し合いで決定したことは、必ず実行する(軽断の尊)ということを前提に話合う
※すべての参加者に「出番」がある話し合いにする

×決定したら終わり ⇒ ○集団決定とともに自己決定をし、実行

- ・決めることがゴールではない。決めたところからスタートだと認識する。
- ・すべての参加者が何かしらの発言をする機会を設ける。
- ・集団決定でとどまらず、自分は何をどう行動するか自己決定も行う。

⇒ **方法例** 多数決ですべてを完結しない 5W1Hまで決める など

視点3 司会者が育つ、**誰もがリーダー**になる活動にする
 …… ※さまざまな集団場面で、どの子もリーダーになれるような活動
※全体司会、グループ内司会を可能な限り、輪番制にして話合う

×一部の生徒の活躍 ⇒ ○すべての子どもの可能性と指導性の伸長

- ・メンバーシップとリーダーシップを身に付けられるようにする。
- ・リーダーとフォロワーの経験を重視する。
- ・「折り合い」をつけるコミュニケーションスキルを身に付けられるようにする。

⇒ **方法例** 司会者の輪番制 グループ討議 など

これらを踏まえ、生徒の問題意識、問題提起からスタートする話し合い活動、多様な考えを出し合い、集団決定を尊重することを前提とした合意形成を行う話し合い活動、集団決定に準じた自己決定も行う話し合い活動、「決めたことは必ず全員でする。できなければ修正して、必ずする。やってよかったと全員が実感する。」学級活動を積み重ねていく。

話し合い活動の流れ

(3) 話し合い活動の流れ

上述した、望ましい集団活動へと向かう話し合い活動の3つの視点に従い、右のような流れを学級における話し合い活動の基本とした。ここで重要視したのが、事前の準備と事後の実践、反省と評価である。特に、事前の準備を十分にしておくことがスムーズな進行と明確な意図にもとづいた集団決定へとつながると考える。さらに、事後の実践を確実に遂行し、適宜その評価、修正を行っていくことが「心の満足」を得られる望ましい集団活動につながり、話し合い活動そのものの形骸化を防ぐことになると考える。

事前	① 議題アンケート等の実施 議題アンケート等の内容をもとに、教師の助言を得て代議員等が議題を決定する。	なぜ話し合うのか？ 何のために話し合うのか？ ★目的等を明確に持つため
	② 議題に関する実態調査	
学級の流れ	③ 司会者、提案者との打ち合わせ <input type="checkbox"/> 議題に関する学級等の実態をとらえ、『提案理由』と『話し合いのめあて』を決める。 <input type="checkbox"/> 『討議の柱』と進行『シナリオ』を作成する。	★ 明確な役割分担によるスムーズな進行のため ★ 効果的に話し合いを進めるため討議内容のプレを防ぐ ★ 司会者育成のため
	開会・役割確認 「今から学級会を始めます。司会の〇〇です・・・」	
	① 議題の発表 「今日の議題は〇〇〇〇です。」	
	② 提案理由の発表 「提案理由を〇〇さんお願いします。」「みなさん・・・」	
	③ 討議の流れの説明 話し合いのめあて発表 「討議の流れを説明します。今日は2つの柱で・・・」 話し合いのめあて発表 「話し合いのめあては〇〇〇〇です。みなさん・・・」	
	④ 議題 「では、一つ目の柱について話し合います・・・」	
	⑤ 決定事項の確認 「決定事項を確認します。決定したことは必ずみんなです・・・」	
	⑥ 自己決定 「決定したことについて、自分がどのように取り組むかまとめましょう」	
	閉会 「これで、学級会を終わります。先生のお話です。お願いします。」	
	事後	① 活動状況の確認(適宜)
	② 反省と評価(朝の会、学級の時間、帰りの会)	

(4) 話し合い活動の実践【第3学年 学級活動3-(イ)クラスの学習ルールをつくろう】

本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
	互いに学び合い、高め合える仲間づくりの大切さを理解し、クラス全員で取り組む学習ルールを決定し、実行することで、集団の一員として学習に対する意欲を高める。	一人一人が、自分の意見をしっかりともち、みんなに伝えることができ、お互いの考えを認め高め合える話し合い活動に積極的に参加する態度を育てる。
道徳の関連	1-(2) 目標の実現	4-(4) 役割と責任
	高校受験に向けて、「全員の志望校合格」を合言葉に、互いに支えあいまし合いながら、一人一人がやり抜こうという強い意志をもつ。	クラスの一員として、一人一人の行動がクラスの雰囲気をつくることや、クラスメイトの支えの難さを自覚し、自らの学習に対する態度を見つめ直し、改善に努める。
	学習活動・主な発問等	生徒の反応等 3つの視点から
事前	○ 実態アンケートの実施。【放課後】 ○ 『クラスの現状を見つめよう』【学活】 ・自分の生活、学習態度を見つめる。 ・クラスの生活、学習態度について見つめ、意見を交わす。(付箋紙記入→班でまとめる→全体で発表) ○ 班長会議(代議委員・班長)【放課後】 《問題提起》…クラスの現在の課題を見つめる。課題解決の方法を考える。 ○ 司会者打ち合わせ【放課後】	<p>視点1 「みんな仲がよく、雰囲気はいいと思う。」 「授業中は、静かだけれど、反応がうすい。」 「受験生としての意識に個人差が大きい。」 「受験生って雰囲気ではまだない。このままではダメだと思う。」 「みんなで受験勉強しよう。」</p> <p>視点3 「それでは、自分の意見を発表してください。」 「質問や付け加えはありませんか。」</p>
	開会・役割確認 1 議題	
本時 YOU TALK	<p>クラスみんなで受験勉強する時間をつくろう</p> <p>2 提案理由の発表 3 討議の流れ説明・話し合いの目当て発表 4 [討議の柱1] いつ、どのような形で？ [討議の柱2] 学習内容、方法は？ 個人で意見をもつ⇒班で意見を交わす 班で意見をまとめ、発表する。 5 決定事項の確認 6 自己決定 「私の決意表明」</p>	<p>視点2 「部活もないし、放課後30分間」 「えっー、朝がいいよ。」 「班のみんなで一緒に勉強しよう。」 「苦手なところを教えてください。」 「でも・・・」「それじゃあ・・・」</p> <p>【決定事項】 視点2 ・朝自習の時間に20分間。 ・受験用テキストを利用する。 ・みんなが苦手なところを、班で教え合い、学び合い学習を行う。</p>

事後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習活動の実施 ○ 感想・アンケート調査 ○ 2学期中旬に振り返りを行い、改善のための修正を行う。 	【生徒の感想】 「友だちの勉強方法が分かってよかった。」 「放課後の方がいいような気がする。」
-----------	---	--

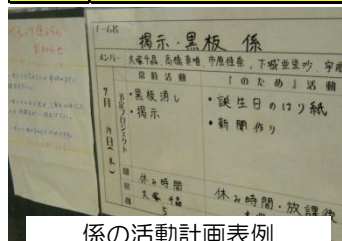
【生徒の変容○と今後の展望☆】

- 初めは、(自分に厳しい意見)、(楽な道を選ぶ意見) など様々な意見が出た。しかし、班や全体での意見交流の中で「折り合い」をつけながら徐々に意識の変化が見えはじめ、クラスの意見としてみんなが受け入れることができたようである。 **視点1・2**
- ☆ 全員の目標達成に向け、より綿密な計画を立て、継続的な取組として、卒業までつなげていかなければならない。そのために、今後も、話し合い活動を通して、振り返りと修正を行っていききたい。

(5) 係活動の充実

生徒一人一人に、自主的、実践的な態度を育成するためには、生徒の自発的、自治的な活動を効果的に展開することが不可欠であると考え。本校では、「自発性」「自主性」「自治性」をもった生徒の姿を右のような具体的場面でとらえている。このように、「自発性→自主性→自治性」へと生徒の姿が高まっていくことをねらい、学級における自治的な活動である**係活動の充実**を図ることにした。係活動は、単なる役割分担としての活動や常時活動に終始するものではなく、よりよい生活を築くための望ましい集団活動として、自治性の高い活動であるべきだと考える。

自発性	まず、気づくことです。例えば、教室にゴミが落ちていた。それに気づいた。気づいたから、どういう行動をとるのか？自分としては、拾ってゴミ箱に捨てた。
自主性	この前、ゴミが落ちていたのに気が付いて、拾ってゴミ箱に捨てたけれども、また、教室にゴミが落ちていた。これではいけないと考え、他人にどう見られようが、自分としてはゴミを拾うと心に決め、率先してゴミを拾うようになった。こうした行動を続けていくことで、もしかしたら、クラスの誰かが協力してくれるようになるかもしれない。
自治性	ゴミを拾い続けているけれども、いっこうによい方向に変わっていくとは感じない。自分がいくらがんばってみても改善には向いていかない。だから、「教室は公共の場であること」「みんなが気持ちよく教室を使おうと行動しているのか振り返ること」「クラスの仲間としてこの問題をどうにか改善できないものか、考えて行動していこう」ということをみんなに提案し、話し合った。その結果、みんなが教室を大切にしようとする気持ちが行動に表れてきて、ゴミが散らされなくなった。また、ドアの閉め方が以前と変わって穏やかになった。常設物の使い方も、この教室を使う人のことを考えようとして使っているように感じられるようになった。



係の活動計画表例
(朝、帰りの会で計画反省)



係の活動の実際
(掲示係などによる学級新聞等の作成)

3 生徒会活動『あそはなうたプロジェクト』の取組

本校生徒の自主的・実践的態度の育成を目指し、一の宮中学校の伝統と先輩たちの取組を土台に、『レベルアップー中(環境・生活・学習)』という生徒会スローガンを掲げ、生徒一人一人がやりがいと責任をもって活動できる生徒会活動を目指している。そして、生徒自らが自分たちの学校を見つめながら課題を見付け、話し合い活動を通じて、より良い学校づくりに向けての改善策を模索し、実践する取組を継続して行い、生徒一人一人の力と学校全体のレベルアップを目指している。

この中でも、「あいさつ」「そうじ」「はな(環境)」「うた(表現)」の4つのレベルアップを目指す『あそはなうたプロジェクト』に力を入れている。この活動は、理想の学校に近付けるために必要なことだと多くの生徒が考えていることであり、生徒一人一人の実践と成果が目に見えやすいものとして、委員会活動を中心に、学年やクラスなど様々な単位で意欲的に取り組んでいる。

プロジェクト	あ	そ	はな	うた
	あいさつ げんき	そうじ かんべき	はな いっぱい	うたこえ ひびく
いつでも・どこでも・だれとでも・だれにでも				



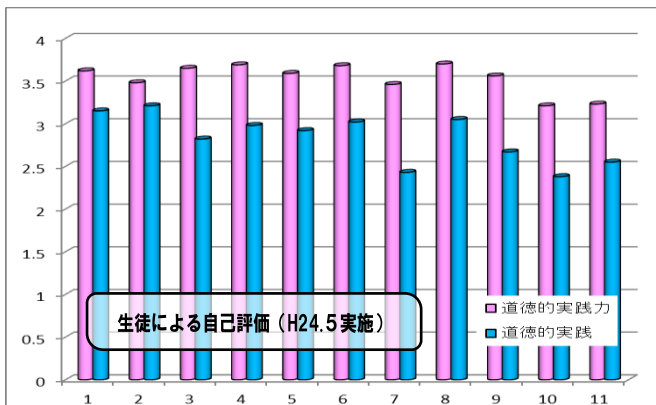
研究内容③ 支持的風土で学び合う各教科の授業づくり

1 道徳教育全体計画別葉の作成

全ての授業で子どもたちに豊かな心を育てることを大前提としている。すなわち、道徳教育を進めるにあたって、教育活動の大部分を占める各教科の授業が果たす役割は非常に大きい。そこで、各教科等の目標や内容等をよく調べ、それらに含まれる道徳的価値を明らかにするために、各教科等の内容及び時期と道徳の内容項目との関連を示した道徳教育全体計画別葉を作成した。

第1学年 道徳教育全体計画別葉の一部																						
内容項目	国語	実施月	社会	月	数学	月	理科	月	英語	月	生徒会											
1-(1) 正しい生活習慣 情報を正確に聞き取る		4					身近な生物を観察しよう	4	10 12		生徒会											
1-(2) 言葉に出会う ため		4							朝の風に	9	運動やスポーツへの関わり方	5	始業式 7-8-12-13									
1-(3) 自主自律 少年の日の思い出		1									自己形成	10	集団宿泊教室	6								
1-(4) 理想の実現 感じたことを文章にしよう		2	世界のさまざまな地域の調査		2		身のまわりの現象	11, 12				10	より良い食生活を 目指して									
1-(5) 自己の向上 はじめての詩		6											心通う合唱	3	美術ってな んだらう?	4	体の発育	6	バランスのと れた食生活	6	体力テスト・ 身体測定	4

2 支持的風土で学び合う各教科の授業づくり



道徳的実践力	道徳的実践
各教科の学習は大切だと思う。	1 各教科の学習をがんばっている。
各教科の学習は自分の人生に役立つと思う。	2 各教科の学習は自分の人生に役立っている。
各教科において、苦手なものでわからないまであきらめずに努力することは大切だと思う。	3 各教科において、苦手なものでわからないまであきらめずに努力することができる。
好きな教科や内容がある。	4 好きな教科や内容について、自分で学習して力を高めている。
各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することが大切だと思う。	5 各教科の授業でも互いに協力したり、教え合ったりして学習することができる。
授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことは大切だと思う。	6 授業中、他者の話を最後まできちんと聞くことができる。
授業中、自分の意見や考えを発表することは、自分や仲間にとって大切だと思う。	7 授業中、自分の意見や考えを発表することができる。
授業中、他者の真剣な発言や不得手な部分をばかにして笑うことは許されないとと思う。	8 授業中、他者の真剣な発言や不得手な部分をばかにして笑うことはない。
しっかりと反応をし、集中して授業に臨むことは、学級や一の宮にとって大切なことだと思う。	9 しっかりと反応をし、集中して授業に臨み、学級や学校の雰囲気をよくしている。
授業や家庭学習などで地域のことを学んだり、地域の方々に教えてもらったりしたいと思う。	10 授業や家庭学習などで地域のことを学んだり、地域の方々に教えてもらったりしている。
家族と、学習のことについて話をしたり、家庭学習を見てもらったりすることはよいことだと思う。	11 家族と、学習のことについて話をしたり、家庭学習を見てもらったりしている。

左のグラフは、育てたい3つの心に関し、各教科での学習の視点から、道徳的価値への思い（道徳的実践力）を問う設問と道徳的実践力に伴う行動（道徳的実践）を問う設問に分けて、生徒が自己評価した結果を表したものである。この調査から、以下の課題等がわかった。

- 各教科の学習の大切さは理解しているが、設問3からわかるように、あきらめずに努力することができていないと感じている生徒が多い。
- 設問7、9から、積極的な授業参加ができていないと感じている生徒が多い。
- 互いに協力したり、教え合ったりして学習することや他者の話を聞くこと、他者の発言や不得手な部分を否定的に見ないことなどの自己評価がやや高いことがわかった。

このことを踏まえ、

支持的風土で学び合う各教科の授業

をキーワードに、生徒一人一人が、支持的風土の中で、自分の思いや考えを言葉で語り、共有して高め合う授業づくりをしていく。そのために、各教科の授業における小集団等での学び合いの場を『YOU I トーク』の場としてとらえ、単なる所属集団の中で個々に学ぶ授業ではなく、意図的な『YOU I トーク』によって、学び合う準拠集団（環境）へと高めていく授業づくりを行う。

(1) 各教科における小集団での学び合い『YOU I トーク』について

教育活動の大半を占める各教科の授業において、学習目標を達成し、同時に支持的風土も形成する有効な言語活動として小集団での『YOU I トーク』を取り入れている。毎時の授業を、他者と力を合わせて課題を解決したり、学習内容が理解できずに困っている仲間へ声をかけたり、自分がわからなくて困っているときに仲間へ助けを求めたりしながら、互いに高め合っていく場にしていく。

(2) 「自然発生グループ」での『YOU I トーク』について

学習形態の効果と留意点 ※黄枠は『YOU I トーク』

『YOU I トーク』は、教科の特性や生徒の実態に応じてその方法や形態はさまざまである。授業者は、目標達成の手段として最も効果的な方法や形態を選択する。中でも、各教科の授業における効果的な『YOU I トーク』と

形態	効果	留意点
一斉	○ 情報が正確に伝わりやすい。 ○ 指導がしやすい。	● 一方通行になりやすい。 ● 一部の思考に左右される。 ● 個々の思考が反映されにくい。
ペア	○ 編成が簡単である。 ○ 取り入れやすい。	● 思考に広がりが出ない。 ● 人間関係の影響を受けやすい。
3人	○ グループ編成がしやすい。 ○ 議論がしやすい。	● 構成員によっては思考の広がりが出にくい場合がある。
4人～	○ より多くの思考に触れることができる。	● 活動に入れない子どもが出てくる。グループ内で分かれて活動してしまう。 ● ある程度の時間が必要である。
バス学習等		
自然発生グループ	○ 生徒同士のコミュニケーションが必然 ○ より多くの思考に触れることが可能 ○ よりよい人間関係を築くことが可能	● 初めは人間関係の影響を受けやすい。 ● 教師の支援（学習内容、発問、指示、声かけなど）の質が問われる。

して位置付け、研究を重ねているのが「**自然発生グループ**」での『YOU I トーク』である。

「自然発生グループ」とは、生徒が課題解決に向けて自由に、流動的に形成するグループのことである。生徒同士のコミュニケーションが必然であり、より多くの思考に触れることが可能である。反面、人間関係や学級経営の影響を直接受けやすく、マイナスの効果を生むことも考えられる。そのため、普段の学級経営、学習内容や発問、指示、声かけなど、指導者の支援等の質が問われる。しかし、発想を転換すれば、「自然発生グループ」での『YOU I トーク』が成立する授業づくり、学級づくりを目指し、実践を積み上げることが、支持的風土で学び合う集団づくりにつながると考えられる。「自然発生グループ」での『YOU I トーク』によって、生徒たちは、「つながる力」を身に付けることができる。課題解決のために自分から他者とつながる、あるいは、仲間と仲間をつなげる経験を積み重ねることによって、支持的風土とよりよい人間関係が形成されていくと考える。

「自然発生グループ」での『YOU I トーク』に関する生徒の意識

<肯定意見>


- 普通の授業より楽しい。○ クラスみんなの意見が聞ける。
- 今までの授業とは違い、自由に動いて話すことができる。
- 考え付かないことを知れる。○ たくさんの意見交換ができる。
- みんなと教え合える。○ その場ですぐ他の意見が聞ける。
- 自分の考えが深まる。
- クラスのみんなと仲良くなれる気がする。

<否定意見>

- 同じメンバーでばかり話す人がいる。
- 人の輪に入るのが苦手だから。

(3) 国語科での実践【第2学年 題材名『明日』（光村図書）】


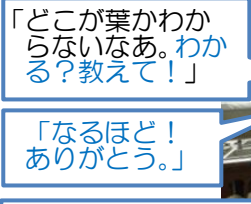


本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
	構成や展開、表現の工夫をとらえ、作品をより深く読み味わう。	互いの考えを認め高め合う支持的な雰囲気の中で、一人一人が心地よく学び合うことができる。
道徳との関連	1 - (2) 目標の実現	2 - (5) 個性の尊重
	人間としてよりよく生きるには、夢や希望をもつことが大切である。夢や希望というものを、生涯をかけて達成する遠大なものにとらえるのではなく、日常的な努力で達成していく小さな目標の積み重ねの先にあるものであることを自覚できるようにする。	いろいろなものの見方や考え方を知り、それぞれの差異を尊重しながら、課題解決に向けて学び合い、そのよさを実感できるようにする。
	学習活動【学習形態】○ 主な発問等	生徒の反応、様子（支持的な発言）等
導入	1 詩を通読する。【一斉】 2 本時のめあてを確認する。【一斉】	
	表現の工夫とその効果をとらえ、作品をより深く読み味わおう。	

<p style="text-align: center;">展 開</p>	<p>3 構成や展開、表現の工夫について考える。 【YOU I トーク（自然発生グループ）】</p> <p>○ この作品では、どのような表現の工夫が用いられているか考えてみましょう。</p> <p>○ わからない人は「わからない」、自分なりの考えがもてた人は「私はこう考える」としっかり伝え合みましょう。全員が考えをもてることが大切です。</p>  <p>4 構成や展開、表現の工夫についてまとめ、その効果等について他者と意見を交流する。 【YOU I トーク（学習グループ）】</p> <p>○ 付箋紙を出し合い、グルーピングをしましょう。それぞれの表現の工夫について、その効果を整理しましょう。</p> <p>5 意見交流の結果を出し合う。 【一斉】</p>	<p>・自力解決、他者に意見を求める、自分の考えを伝えるなど、課題解決のために自由に場を移動して学び合う様子が見られた。</p> <p>「この「明日」って言葉は、何回も繰り返し使っているよね。」 「同じ言葉が何回も使われていると印象に残るね。」 「なるほど。全然気が付かんかった。」 「他に何か気付いたことない？教えてよ。」 「僕は全然わからないんだけど・・・どうのこと？」</p> <p>「僕は向こうの人たちのところに行ってみよう！」</p> <p>「例えの表現が使われているんじゃないかな。」</p> <p>・自然発生グループでそれぞれが得たものを学習グループで出し合い、意見をまとめていった。</p> <p>「まずは、それぞれが集めた情報や考えたことを発表してください。」</p> <p>「『反復法』はリズムが出て耳に残るよね。」</p> <p>「確かに。「強調」の効果があると思う。」</p>
	<p style="text-align: center;">ま と め</p>	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の予告をする。 【一斉】</p>

【生徒の変容〇と今後の展望☆】

- 本時においては、「自然発生グループ」によって考えを出し合い、共有する時間を十分に確保した。さらに「学習グループ」で練り上げる場を設定したことによって学びを深めることができた。生徒たちは、自分だけの思考では限りがあること、より多くの仲間とつながることで思考が広がり深まることを実感できた。
また、『YOU I トーク』をする際、他者との意見交流を苦手としている仲間に気付き、「何か気付いたことある？」「一緒に動こう」と声をかける生徒がいた。この生徒の声かけをきっかけとして、意見交流を苦手としていた生徒が、自らの意志で複数の生徒と関わり合うことができた。
- 休み時間や放課後の時間に、授業中わからなかったことを友だちや教師にたずねる姿が日常的に見られるようになってきた。
- ☆ 「自然発生グループ」での『YOU I トーク』の際、固定された交友関係の範囲内でのみ学び合う生徒が数名いた。今後の展望としては、『YOU I トーク』の目的と意義、それがもたらす効果について、教師だけでなく全ての生徒が実感できるよう、取組を積み上げていきたい。

(4) 理科での実践【第1学年 単元名『植物の世界(第3章植物の種類)』(東京書籍)】

本時の目標	学習目標達成の視点	支持的風土形成の視点
道徳との関連	1-(2) 目標の実現 植物のからだのつくりとはたらきを学習するなかで、自然の偉大さ、すばらしさを知り、人間が自然の中で生かされていることに気付き、畏敬の念をいだくとともに、地域の自然に親しみ、愛護に努めようとする態度を育てていく。	4-(4) 役割と責任 小集団で自他の考えを交流する場面を多く設定することで、自分の考えを他者と伝え合うことへの抵抗感を減らし、意見を交流し合うことのよさを実感し、自分の表現に自信をもてるようにする。
	学習活動【 学習形態 】○主な発問等	生徒の反応、様子(支持的な発言)等
導入	1 植物のからだのつくりを復習する。【一斉】 2 本時のめあてを確認する。【一斉】 被子植物の特徴をもとに、野菜を分類し、食べているのがどの部分か考えよう。	
展開	3 野菜の分類と食べている部分の予想をする。【個人】 4 単子葉類と双子葉類に分けた後、食べる部分について考える。 【YOU I トーク(学習グループ)】 ○ 食べている部分の分け方の根拠を説明できるようにしましょう。 ○ わからない人は「わからない」、根拠がもてた人は、「私はこう考える。(自分の言葉で)」としっかり伝え合しましょう。 5 食べている部分の分け方の根拠について他者と考えを交流する。 【YOU I トーク(自然発生グループ)】 ○ 全員が考えをもてることが大切です。 	・6種類の野菜をまずは個人で調べた。その後、自然に共同解決(他者に意見を求める)を行い、学び合う様子が見られた。  「どこが葉かわからないなあ。わかる? 教えて!」 「なるほど! ありがとう。」 「赤い液につけて維管束の染まり方を見てみるといいよ!」 ・課題解決のために自由に場を移動して学び合う様子が見られた。 「どうやって見分けるの? 教えてよ!」 「アスパラガスには三角形の小さい葉がついてるよ。ということはどこを食べていると思う?」 
まとめ	6 班で考えをまとめ発表する。 7 本時の学習を振り返る。 (GTの家庭科教諭より)【一斉】  「アスパラガスの置き方でかわるんだ。すごい!」	

【生徒の変容○と今後の展望☆】

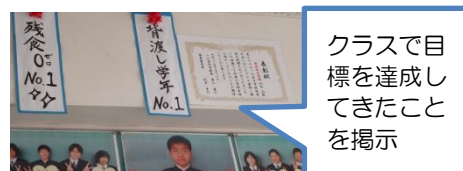
- 本時においては、『YOU I トーク』を行うことで、全体で他者との考えを交流することにつながることができ、多くの友達のことを自分の考えと重ねることができた。さらに、「どの部分を食べているのか詳しく自分たちで調べて、わかることができたのでよかったです。」「普段、何気なく食べている植物もよく調べてみるといろいろなことがわかったのでおもしろかった。他の植物も調べてみたい。」等の生徒の感想から、自分から進んで活動に取り組んだことでの理解の定着や、さらなる意欲付けを図ることができた。
- ☆ 今後の課題としては、自然発生グループでの『YOU I トーク』から、活動班に戻って意見を交流することができる等、『YOU I トーク』を場面に応じて効果的に活用していけるように取組を続けていきたい。そして、クラス全体でお互いの考えを共有し達成感をもつことができるような『YOU I トーク』を目指していきたい。

研究内容④ 日常的に道徳的価値に触れる校内環境づくり

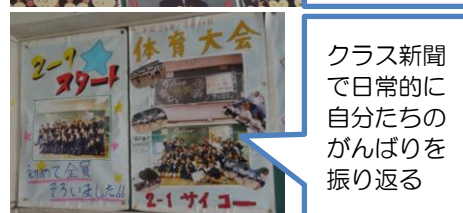
「環境は人を育てる」と言われるように、学校教育において、日々の生活する学校や学級の環境が生徒に与える影響は極めて大きい。豊かな心を育むには、生徒たちの心情面に働きかける環境を整えることが必要である。そこで、生徒の生活の基盤である校内の環境を道徳的観点から意図的・計画的に整備していくことで、日常的に道徳的価値に触れられる環境づくりを行う。また、本校の研究主題「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心」に基づき3つの観点で次のような環境設営の工夫を行った。

1 「自己実現を楽しむ心」の育成のために

日常的に、自分のがんばりや仲間のがんばりを振り返ったり、集団で目標達成した記録等を目にしたすることは、自己実現を楽しむ心を育むために必要なことであると考え。そこで、学級の係活動や生徒会活動等を活性化して、生徒自らが自分たちの目標とその達成状況を意識できるような掲示等の工夫を行っている。これらが日常的に目に触れる場所にあることで、生徒は、常に目標を意識し、自己実現に伴う達成感や充実感を、仲間と共有することができる。このことが、自己肯定感を高め、次の目標や挑戦に向かって自己実現していくことを楽しむ心の育成へとつながると考える。



クラスで目標を達成してきたことを掲示



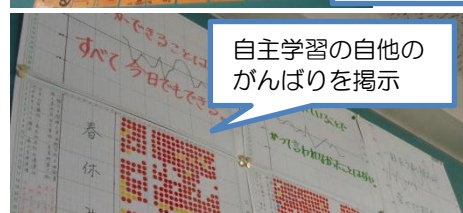
クラス新聞で日常的に自分たちのがんばりを振り返る



常に意識する学級目標

2 「自他を大切にできる心」の育成のために

自他を大切にするためには、他者とのかかわり合いや相互の協力、励まし合いの中で自他について理解を深め、自他のよさに気付くことが必要である。そこで、互いのことを知り合うことや、よさを認め合う環境づくりをすることが、自他を大切にできる心の育成につながると考えている。人間的な温かさに、日常的に触れ合うことのできる環境を設営することで、自他を大切にできるよりよい人間関係を形成できると考えた。



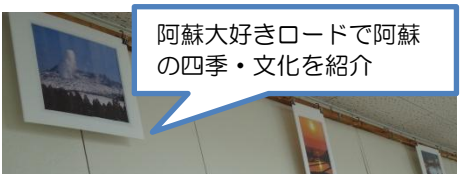
自主学習の自他のがんばりを掲示



誕生日を掲示し、自他の命の誕生を意識し、喜び合う

3 「ふるさとを愛する心」の育成のために

ふるさとを愛するには、郷土に目を向け、その環境や人々への感謝の気持ちをもつことが必要である。しかし、生まれたときから阿蘇という環境で育ってきた生徒たちにとっては、その環境自体が当たり前になっており、生まれ育つふるさとのよさをあまり意識しない実態がある。阿蘇は、世界的にも評価の高い自然と文化に恵まれており、それらは人々の手によって守られ、受け継がれてきたものである。そこで、地域社会や郷土に関する資料などを掲示し、視覚的に意識させることで、改めてそのよさに気付くことができると考えた。身の回りの自然や文化、それを守り受け継ぐ人々への尊敬や感謝の心を持ち、それを自分たちが後世に発展させ引き継いでいこうとする心を育みたいと考えている。



阿蘇大好きロードで阿蘇の四季・文化を紹介



心のノートの拡大掲示

Ⅲ 研究のまとめ

～仮説の検証【研究の成果(○)と課題(●)、今後の展望(☆)】～

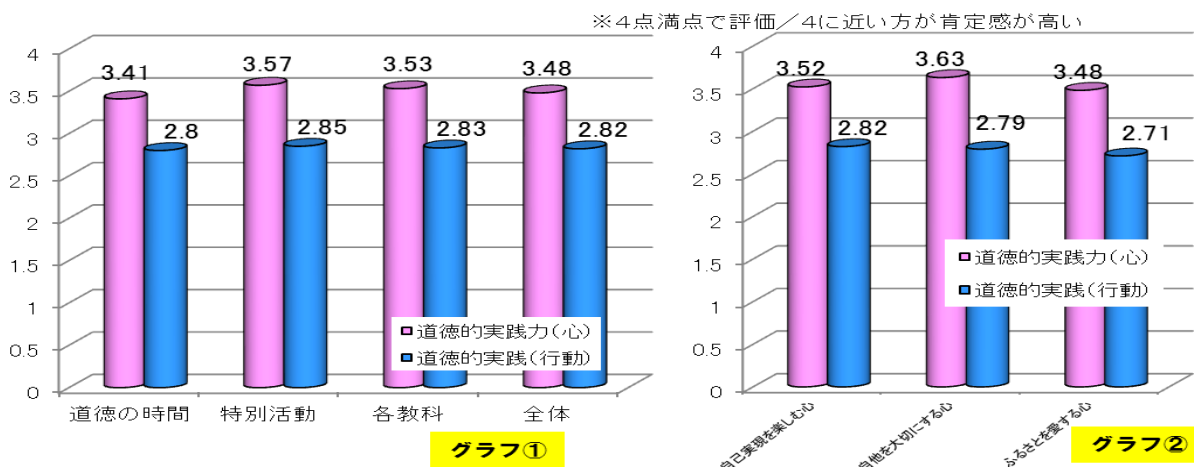
全体仮説について

全体仮説 全ての教育活動を貫き道徳性を育む言語活動として『YOU I トーク』を位置付け、『一中プラン』に基づいた実践を重ねれば、支持的風土の中で必然的に生徒同士が学び合う集団となり、豊かな心を育むことができるであろう。

生徒の道徳性の高まりを見取る手段として、「道徳の時間」「特別活動」「各教科」の3つの観点と「育てたい3つの心」とをからめ、それぞれを、主に「大切だと思うか」を問う「道徳的实践力」と、主に「行動につながられているか」を問う「道徳的实践」の2つの視点から生徒アンケート調査を実施した。

	心		自己評価	行動		自己評価
	道徳的实践力			道徳的实践		
(2)	9 道徳	命はかけがえないもので大切にしたいと思う。	4 3 2 1	9	命を大切にした言動をしている。	4 3 2 1
	10 特別活動	命を大切にしようと思っているクラスである。	4 3 2 1	10	命を大切にした言動ができているクラスである。	4 3 2 1
	11 各教科	各教科の学習は自分の人生に役立つと思う。	4 3 2 1	11	各教科の学習は自分の人生に役立っている。	4 3 2 1
自己実現を楽しみ る心	12 全体	努力する人間になりたいと思う。	4 3 2 1	12	努力ができる人間である。	4 3 2 1
	13 道徳	目標を持って努力することは大切だと思う。	4 3 2 1	13	目標に向かって努力している。	4 3 2 1
	14 道徳	目標に向かって努力することが好きだ。	4 3 2 2	14		4 3 2 1
	15 特別活動	共にかんばれる仲間(友達)が必要だと思う。	4 3 2 1	15	共にかんばれる仲間(友達)がいる。	4 3 2 1
	16 各教科	各教科において、苦手なものでもわかるまであきらめずに努力することは大切だと思う。	4 3 2 1	16	各教科において、苦手なものでもわかるまであきらめずに努力している。	4 3 2 1
(4)	17 全体	自分にはよいところがある。	4 3 2 1	17	自分のよいところを発揮している。	4 3 2 1
	18 道徳	自分のことを知ることは大切だと思う。	4 3 2 1	18	自分のことはよくわかっている。	4 3 2 1
	19 特別活動	友達の良いところを見習うことは大切だと思う。	4 3 2 1	19	友達の良いところを見習って自分を高めている。	4 3 2 1
	20 各教科	好きな教科や内容がある。	4 3 2 1	20	好きな教科や内容について、自分で学習して	4 3 2 1

生徒が自身の道徳性を自己評価する『あそはなうたアンケート』の一部



(上のグラフは平成24年5月実施の結果。グラフ①は領域等別に集計。グラフ②は「育てたい3つの心」別に集計。)

- 上の調査の結果から、今年度5月段階の本校生徒の実態として道徳的価値に関してはその重要性や必要性はおおむね理解している。本取組の成果が表れているといえる。
- 道徳的価値の理解といった点においては、ほとんどの生徒が自身を肯定的にとらえているものの、実際の自身の行動が、理想としている道徳的实践にはつながっていないと感じている生徒が依然として多い。
- ☆ 今後も、道徳性を育む言語活動『YOU I トーク』の実践をさらに重ねていく。道徳の時間を要として、道徳的实践の場である特別活動や総合的な学習の時間等を活用しての体験活動、各教科での学び合いを充実させることで、支持的風土が形成され、さらには自己肯定感も高まるであろう。結果的には、さらに道徳的实践力が高まり、道徳的实践力と道徳的实践の差が縮まっていくと考えている。

1 仮説①について 研究内容①

生き方について語り合い、多様な価値観に出会うことで自他を見つめることのできる道德の時間を充実させれば、自他やふるさとへの理解が深まり、生徒に豊かな心を育むことができるであろう。

- 右は、第2学年道德「西光万吉と水平社宣言」(4-(3)公正公平)の学習の中で主人公の生き方に触れ、他者との『YOU I トーク』を通して、自他の生き方について語り合った後の感想の一例である。今の自分、これまでの自分を他者とのかわりの中で見つめ直し、これからの自分に希望をもつことができている。このような生き方について語り合う授業を積み重ねていくことで豊かな心が育まれていくと考える。
- 道德の時間を充実させるためには、本音を語り合うことができる集団の支持的風土を育むことが不可欠である。
- ☆ 今後も、特別活動、各教科の授業など全ての教育活動での道德教育を、要である生き方を語り合う道德の時間とともに充実させていく。

前文省略

せん。西光万吉さんには比べたり、
情けないけれど僕も自分なりに
努力はしています。今は友達
や先生、家族など心配してくれ
る人がいるからいいけど水の中
に僕は周りの人の優しさ
に、あまえておもう。今まで
以上に努力しないと、今の自分
も乗りこえられまいし、僕の夢
も叶えられませんか。昔から目標
を達成できたことなど数えるくらい
しかなないけど、そのときは、みんなの
ために動いていることが多かったです。

上で言っている通り今は心配して
くれる人かいて、先生は家にこがえに
来てくれたりします。友達には先生と
一緒に来てくれたり、学校に来たり
声をかけてくれたり、今日は落ちこんで
いるところに、違うクラスの子ども同じワ
ラスの子ども元気つけようとしてくれたり
してくれました。家族もいろいろ心配
してくれました。とてもうれしかったで
す。でも僕はそんなみんなの気持ち
に全然こたえられませんでした。
水がうるさいなと思、たこさもあり
ました。けれど今はその比自の行動が
うれしいです。僕はそれを自分の力の
糧にして、比自の思いにこたえたい。ま
ず、比自のために、力を借せるようにな
る。みんなの思いを、借ります。

2 仮説②について 研究内容②

道德的実践の場として、意図的・計画的な特別活動を充実させれば、望ましい人間関係や一人一人のコミュニケーション能力を高めることができ、生徒に自主的・実践的な態度や豊かな心を育むことができるであろう。

- 自主的・実践的な態度の育成につながる特別活動を充実させるためには、生徒に時間と場を十分に与えなければならない。しかし、時間、場には限りがある。特別活動の充実、教師側の明確な意図と綿密な計画が不可欠だとわかった。
- ☆ 今後も、単発的な取組ではなく、「話し合い活動」によって運営され、継続して積み上げる取組を充実させていく。さらには、3年間の系統を明確にした指導計画等の再構築をしていく。
- ☆ 各学級の係活動や班活動のさらなる見直しを行い、各学級の組織を意図的に作り上げていくことで自治的な学級集団を作る。このことが自治的な生徒会活動にもつながる。学級集団が所属集団から準拠集団へと高まり、生徒一人一人が所属感や達成感を共に味わえる取組を積み上げ、自尊感情を高めていきたい。

3 仮説③について 研究内容③

各教科での学習の中で、効果的な『学び合い』の場を設定し、実践を重ねれば、学習目標の達成と同時に支持的風土が形成され、生徒に確かな学力と豊かな心を育むことができるであろう。

- ほとんどの生徒が「みんなの意見が聞けて楽しい」「わからないことを一緒に考えられる」「クラスのみんなとなかよくなれる気がする」と『YOU I トーク』を肯定的にとらえ、学び合うことのよさを実感している。朝自習や放課後など、授業以外の日常場面でも互いに教え合う姿が見られるようになってきた。
- ☆ 今後も、授業改善、学級経営改善の有効な手段として『YOU I トーク』を効果的に取り入れていく。

4 仮説④について 研究内容④

生徒の生活の基盤である校内の環境を道德的観点から整えれば、日常的に道德的価値に触れることができ、生徒に豊かな心を育むことができるであろう。

- 環境が人の心に及ぼす影響が大きいこと、教室や学校の環境が生徒の心を映す鏡であることを教師、生徒ともに十分理解し、わずかな変化にも気付き、互いに声を掛け合える雰囲気づくりがさらに必要である。
- ☆ 今後は、生徒が自分達で環境づくりをしていけるよう、各学級の係活動や生徒会活動を充実させていく。

お わ り に

中学校においては本年度（平成24年度）から、新学習指導要領が全面実施となりました。その趣旨は、「確かな学力」、「豊かな心」、及び「健やかな体」を構成要素とする「生きる力」を生徒一人一人に育むことにあります。

そのような中で本校は、平成23・24年度の2年間にわたり、熊本県教育委員会「生きる力を育む研究指定校（心の教育研究推進校）」の指定を受け、「自分、仲間、ふるさとを愛す、豊かな心を身に付けた生徒の育成」をテーマに、研究・実践に取り組んで参りました。

研究のスタート時にある問題が生じました。それは、「豊かな心」について、それぞれの思いや考えはもっているものの、漠然としていて共通理解がなされていないという我々教職員の実態でした。いうまでもなく、共通理解なしに効果的な共通実践は生まれません。

そこで、本校でまず最初に取り組んだことは、「豊かな心」について職員間で共通理解を図ることでした。生徒及び地域等の実態やアンケート結果を踏まえて、本校で特に育みたい「豊かな心」を「自己実現を楽しむ心」、「自他を大切に作る心」、及び「ふるさとを愛する心」の3つに重点化し、その3つの心の育成を目指し、種々の実践に取り組んで参りました。

研究推進の道のりは必ずしも平坦ではなく、前に進まず苦しい場面も多々ありましたが、心が温くなる瞬間もありました。次の文面は、平成24年7月19日付け熊本日日新聞「ハイ！こちら編集局」のコーナーに掲載されたものです。

・・・12日の豪雨で自宅が床上浸水の被害に遭いました。片付けで毎日大変ですが、ありがたい手助けもいただいて感謝の思いでいっぱいです。先日は片付けで出た大量の空き瓶や缶をどうやって捨てようかと途方に暮れていたところ、たまたま自宅前の川や道路を清掃していた一の宮中の生徒さんたち5人が「ごみを運んでいきましょうか」と言って、リヤカーで400メートルほど先の学校まで2回往復して運んでくれました。本当にうれしかったです。まだ片付けは続きますが、頑張っていこうと思います。

阿蘇市 詩吟講師・男89歳

該当する生徒たちが喜んだのはもちろんのこと、我々教職員も本当に嬉しい思いをさせていただきました。そのような声を熊日に届けていただいた地域の方、そして何よりも本校の生徒たちに感謝します。

まだまだ研究の過程であり、成果よりも課題の方が多いた状況ではありますが、本日は皆様方の貴重なご意見等をいただき、本校の研究を更に深めていきたいと考えております。

最後に、これまで本校の研究に懇切丁寧に御指導、御助言をいただきました熊本県教育庁教育指導局義務教育課、熊本県阿蘇教育事務所、及び阿蘇市教育委員会の先生方、並びに本日ご参会の皆様に心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- 『中学校学習指導要領解説道徳編』 文部科学省 平成20年9月
- 『中学校学習指導要領解説特別活動編』 文部科学省 平成20年9月
- 『平成23年度道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）資料』
独立行政法人教員研修センター 文部科学省 平成23年6月
- 『中学校 心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』 文部科学省 平成14年
- 『「新しい時代を拓く心を育てるために」一次世代を育てる心を失う危機ー』
中央教育審議会「幼児期からの心の教育の在り方について」答申 平成10年6月
- 『道徳教育推進教師の役割と実際』
永田繁雄・島恒生編 教育出版 平成22年8月
- 『新しいリーダーシップ 集団指導の行動科学』 三隅二不二
ダイヤモンド社 昭和41年
- 『中学校「道徳シート」とエンカウンターで進める道徳』
諸富祥彦・齊藤優・植草伸之 編著 明治図書 平成19年2月
- 『自立と共生の心を育てる小集団学習』
高旗正人・熊本県個集研編著 黎明書房 平成14年2月
- 『自立と共生の授業づくり・学級づくり』
相原次男監修 熊本県個集研著 黎明書房 平成19年3月
- 『心を育て、つなぐ特別活動』 杉田洋編著 文溪堂 平成21年8月
- 『よりよい人間関係を築く特別活動』 杉田洋著 図書文化社 平成21年12月
- 『「学び合い」スタートブック』 西川純編 学陽書房 平成22年9月
- 『学び合う教室』 西川純著 東洋館出版社 平成12年3月
- 『学び合いの仕組みと不思議』 西川純著 東洋館出版社 平成14年3月
- 『クラス会議で学級は変わる！』
諸富祥彦監修 森重裕二著 明治図書 平成22年1月
- 『各教科・領域における道徳教育の進め方の実際』
小島宏編 教育出版 平成22年8月

【研究同人】

平成24年度

家入 春三	藤岡 寛成	竹下 佳子	石田 陽子	藤原 道則	小島 秀章
坂本 昌彦	中川真理子	佐渡 哲	瀧川 修二	松村 哲也	吉田 忠利
後藤 香	安田 浩	中村昇二郎	田中 知博	荒木 鉄成	林 葵
内村 尚敬	小山 裕子	西岡 朋美	村上 徳洋	松村妃里子	上村 萌子
吉田みどり	安部 公房	上田 郁子	松本 祐樹	大野 泰弘	堂福美巴子
筑紫 貴子	高田 博子	和田つよこ	山口 千鶴		
村上 寛隆	山内恵里加	ジェフリー・キャメロン			

平成23年度

田代 柳一	松原 孝行	山田 孝夫	松田 直浩	島岡江三子	酒井 智子
丸山 輝高	土田 一也	堀 まゆみ	西尾 尚美	園田 浩香	